２０１８年（平成３０年）７月１６日　月曜日

デーリー東北　１１面　掲載

第100回 全国高校野球選手権記念 青森大会

８強出そろう

あすから準々決勝

◇第６日

第100回全国高校野球選手権記念青森大会第６日は15日、八戸市長根、青森市営、弘前市はるか夢、六戸町メイプルで３回戦８試合を実施し、８強が出そろった。大間は東奥学園を２―１で下し、同校初の準々決勝進出。工大一は三本木を４―０で退けた。シード校の八学光星、青森山田、弘前工、弘学聖愛も８強に名を連ねた。八高専は青森に敗れた。準々決勝以降は、はるか夢球場が会場となる。16日は移動日のため試合を行わない。大会第７日は17日、同球場で準々決勝２試合を行う。（取材班）

【五所川原―八学光星】初回1死二、三塁、暴投の間に先制のホームを踏む光星の三走近藤俊太（中央）＝長根

光星攻撃そつなく

初回に得点 勢いづく

五所川原000000000　1
八学光星200203×　7
（7回コールド）

（五）対馬―佐藤滉
（八）福山、矢野―秋山
▽二塁打　東、武岡、長南（八）▽暴投　対馬4（五）▽ボーク　対馬（五）▽捕逸　秋山（八）
▽試合時間　1時間47分

（球審＝井上、塁審＝高坂、小田、舘）

【評】光星は初回、近藤俊、武岡の連打で1死二、三塁から暴投の間に先制。東の中前打で2点目を加えた。四回に武岡の二塁打などで2点、六回に長南の中越え二塁打などで3点を加え、点差を広げた。五所川原は三塁まで走者を進めた一、四回に得点できなかった。

五所川原・佐藤滉士主将（コールド負けで）「地力の差で負けた。これまで磨いてきた内野の守備の強さで、計3イニングを0点に抑えられたのは良かった」

○…五所川原をコールドで退けた八学光星。好機で1打が出て、着実に得点を重ねての勝利に、主砲東健太郎は「初回に得点でき、勢いづくことができた」と勝因を語った。

相手投手は直球勝負で来る―と踏んで、狙い球を絞ってバットを振った。初回1死三塁で打席が回ってきた場面でも、直球を中前に運んで2点目をもたらし、4番としての役割を全うした。

この日、2安打2打点と活躍した武岡龍世も「初戦に比べ、大会の雰囲気に慣れ、普段通りプレーできた」と落ち着いた表情。準々決勝から、はるか夢球場に舞台が移るが、「人工芝の暑さにも気を使いながら、プレーの質を上げていきたい」と意気込んだ。

【五所川原】	打	安	点	振	球
④ 吉田滉	3	3	0	0	1
⑤ 田端	3	3	0	1	0
⑥ 馬田	3	2	0	1	0
② 田中	3	2	1	0	1
① 対馬	3	1	0	0	0
⑦ 佐藤	2	0	0	1	0
⑧ 対戦	2	0	0	0	0
⑨ 鎌田	2	0	0	0	0
H 橋口	1	0	0	0	0
③ 藤三川	2	1	0	0	1
犠					
盗					
失					
併残					
神	3	0	2	1	8

【八学光星】	打	安	点	振	球
④ 近藤	4	2	2	1	0
⑧ 後岡南	4	2	1	0	0
⑦ 武長	4	1	1	0	0
③ 東	4	2	1	0	0
1 林遼	3	0	0	1	0
捕 北近	3	1	0	0	0
矢藤	3	2	0	1	1
⑨ 伊野	3	3	0	1	0
秋藤	3	3	1	0	0
福山	3	2	1	0	1
犠					
盗					
併残					
矢	1	3	1	0	6

投対	回	打	安	振	球	失
手馬	6	31	12	3	0	7
山野	6⅓	27	6	4	2	0
福矢	2/3	2	0	0	0	0

デーリー東北新聞社提供